

朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 10章 30-35 (新約聖書 125 頁)

ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追い剥ぎに襲われた。追い剥ぎたちはその人の服を剥ぎ取り、殴りつけ、瀕死の状態にして逃げ去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、反対側を歩いて行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、反対側を歩いて行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、その場所に来ると、その人を見て気の毒に思い、近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。「この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。」

誰もが善きサマリア人なら

昔、ある生徒がここを読み「世界の誰もが善きサマリア人なら平和な世界になるのに・・・」と言いました。つまりそんなことはあり得ない、サマリア人になるのは難しいと言っているのです。確かに世の中には追い剥ぎのような人がいます。瀕死の人を見ても反対側を歩いて行ってしまふ祭司やレビ人のような人が多いでしょう。

人生は旅のようなものですが、旅は自分の思い通りにはなりません。生まれ、育つ環境、そして出会う人も、あなたの安全で安心な旅が用意されているわけではありません。そして危険に気づいても引き返せない、どうしても通らなければならない道があります。誰にも助けてもらえない、日が沈み夜になれば、闇の中でじっと夜が明けるのを待たなければなりません。

追い剥ぎに襲われた人は「瀕死の状態」とあります。身体を触っても反応がなく、名前も言えず、目も閉じたままだったでしょう。そこへ偶然、サマリア人が通りかかりました。彼の旅は終わりました。彼の持っているもの、彼の時間も、お金も、帰り道も、彼は身も心もすべてを追い剥ぎに襲われた人に差し出しました。

「世界の誰もが善きサマリア人なら・・・」、でも人類の歴史で一度だけ善きサマリア人がいました。イエスです。サマリア人になれない者たちのために十字架の死に至るまで自らを献げたイエスです。そして彼こそキリスト、救い主、あのサマリア人だと信じ、生きる喜びを告白する人々が世界に広がりました。さて夏休み、あなたも偶然サマリア人に会うかもしれません。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、いよいよ夏休みを迎えます。初めて英和の夏休みを迎える者、最後の英和の夏休みを迎える者、誰もが違う夏休みを迎えます。四月、「一切の思い煩いを神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです」のみ言葉で一年が始まりました。どうか夏休みの間もあなたのまなざしを感じ、あなたとの出会いを楽しみにしています。特に今年の夏は世界が戦火に包まれた戦争から 80 年を迎えます。戦争を経験した人たちは年々、あなたの身元に旅立ち、戦争を知らない者の中には愚かにも今も戦いを繰り返し、幼い子供たち戦火に犠牲となっています。どうかあなたの光でわたしたちの闇を照らし、あなたの平和の器として導いてください。また特に心身に困難をかかえる方々を覚えて祈ります。どうかみ心ならば、ひと時でも早く回復の時を迎え、共に喜びと感謝を献げる日がきますように慰め励ましてください。今日一日も、そして夏休みの一日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン